

国立大学法人筑波技術大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

筑波技術大学は、聴覚・視覚障害者のための高等教育機関として、今日の知識基盤社会に対応するため、個々の学生の障害特性に配慮した教育を通じて、幅広い教養と専門的、応用的能力を持つ専門職業人を養成し、両障害者が社会的自立を果たし、自ら障害を持つリーダーとして社会貢献できる人材の育成を図るとともに、新しい教育方法の研究と実践を通して国内外の障害者教育及び職業自立の発展に資することを基本的な目標としている。第2期中期目標期間においては、最新の科学技術を利用して聴覚・視覚の障害を補償する教育方法やシステム等を開発し、情報授受のバリアのない教育環境の構築に努めること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、上質な情報保障（手話・点字等の障害者に対するイコールアクセス）に向けて、授業の合同実施や徹底した個別指導を行っているほか、モバイル型遠隔情報保障システムの研究開発等によるイコールアクセスを推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（機能強化に向けた取組状況）

人材・システムのグローバル化による世界トップレベルの拠点形成を目指し、外国人講師による英会話サロンの実施及び短期留学事業として、欧州、米国等の協定校8校に学生17名、教職員延べ17名を派遣しているほか、障害をもつ留学生に対する支援事業として、チューターの配置、日本語能力向上のための授業や補講の実施、授業等における情報保障の配置等の取組を実施している。また、学長のリーダーシップの下、理療科教員養成課程の設置に係る検討や、既卒者等の修業年数を軽減するために2年次編入学等の実施を検討するなどの教育改革に向けた取組を推進している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 効果的・効率的な法人運営の推進

教育については、教育・学生・附属図書館担当の副学長が教務委員会及び学生委員会の委員長を兼務し、研究については、研究・企画戦略・危機管理担当の副学長が学術・社会貢献推進委員会及び研究倫理委員会の委員長を兼務することにより、大学の方針と各委員会での議論の共有化が図れ、アカデミック・アドバイザー制度の定着や研究成果の効率的な発信に効果を上げているほか、評価担当の特命学長補佐が評価室長を担当することにより、各部局の課題等を的確に把握し、人事配置や業務配分等に

効果を上げている。

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ 学生定員の未充足

大学院修士課程について、学生収容定員の充足率が 90 %を満たさなかったことから、今後、速やかに、入学者の学力水準に留意しつつ、定員の充足に向けた取組に努めることが望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 17 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- ①外部資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
- ③資産の運用管理の改善

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 患者サービスの向上を通じた収入増

保健科学部附属東西医学統合医療センターにおいて、資格取得者の卒後教育として、鍼灸施術部で積極的に研修生の受入れを行い、平成 26 年度の研修生を 11 名に増加（前年度比 37.5% 増加）させることによる患者の待機時間の短縮化や、診断画像のフィルムレス化による検査時間の短縮等の患者サービスの向上により、患者数が約 10 %増加しているほか、収入についても約 5 %増加している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 10 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- ①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 積極的な広報活動の展開

新たに大学公式 SNS の運用を開始し、教育研究や学生生活等の情報を積極的に発信しているほか、さらなる広報活動強化を目的として大学の特徴である視覚・聴覚を表現したデザインの「コミュニケーションマーク」を策定し、聴覚障害者・視覚障害者

のための高等教育機関であることを広く社会に対しアピールするなどの広報活動を展開している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 大学の特性を踏まえた施設整備

保健科学部バリアフリー実施ワーキンググループにおいて、キャンパス内のバリアフリー化、安全性、情報保障に関する施設整備の点検・検討を行い、車道横断ルートの未整備箇所に横断歩道のペイントを施し、エスコートゾーン（横断歩道用の点字ブロック）を設置するなどの改善を図っているほか、バリアフリーの取組の一部は、テクノレポート（紀要）等で公表を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 学生の受入りに係る全国的な入試説明会等の展開

アドミッション・ポリシーに基づいた学生の受入れを推進するため、オープンキャンパス（つくば 4 回）、大学説明会（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡）、大学ミニ説明会（全国各地の特別支援学校等）、進学ガイダンス（東京、新潟）、学園祭での入試相談会を実施し、入学者募集基準や教育内容の周知を図るとともに、体験授業や進路相談を通して、受験生やその保護者に対して大学の教育内容をよりわかりやすく示している。

○ アドミッションポリシーに基づく入学前通信教育の実施

アドミッション・ポリシーに基づいた学生の受入れを、より着実に実現するために実施している推薦入学試験合格者向けの入学前通信教育について、学生本人及び出身校から好評を得ていることを踏まえ、平成 26 年度は、個別学力検査合格者にも拡大し

て実施するとともに、本取組の成果についても継続した分析を行っている。

○ 理学療法士試験合格率のさらなる向上を目指した取組

国家試験に特化した特任教員を配置し、学部4年次生に対して毎週演習問題を試験形式で実施しており、特に平成26年度は、合格率の改善を期するために学外模試を9回施行した結果、理学療法士国家試験合格率为100%としている。

○ 上質な情報保障に向けた授業の合同実施や徹底した個別指導

情報アクセシビリティ専攻において、ICTを併用しつつ基盤科目、共通科目を合同実施することにより、上質な情報保障の方策が議論されているほか、学生に対して、障害学生支援に携わる可能性を見据えて、関係する学会への参加や関係機関の専門家等との意見交換を積極的に行うよう指導を行った結果、視覚障害関係の社会福祉法人への就職につなげるなど、主指導教員及び副指導教員による徹底した個別指導により、研究と就業を両立させることを可能とする体制を構築している。

○ モバイル型遠隔情報保障システムの研究開発及び成果の活用

モバイル型遠隔情報保障システムの問題点を解決するための新システム「T-TAC Caption」の研究開発を推進しており、授業・講義での利用実績は、都内の一般高校をはじめとする初等中等教育機関においては1,290コマ（1コマ標準50分）、高等教育機関においては449コマ（1コマ90分）となっているほか、学内会議、学外教育機関での教育実習やゼミ合宿等での利用実績も含めると約1,779時間となっているなど、研究成果の活用が図られている。

○ 学生・教職員の短期留学事業の実施を通じた国際交流

短期留学事業として、欧州、米国、韓国、ロシア、中国における協定校（8校）に、学生17名（聴覚障害学生9名、視覚障害学生8名）、教職員延べ17名を各10日程度の日程で派遣しており、派遣学生の専門に応じた授業・実習参加や派遣先大学の学生とのディスカッション等を実施しているほか、派遣教職員については、現地学生に対するワークショップの企画、専門分野のプレゼンテーションの実施等の取組を通じて、専門知識の深化や、国際感覚・コミュニケーション能力の向上が図られている。

○ 障害者の英語外部試験受験に向けた支援

グローバル化に向けて、視覚障害学生のTOEIC受験を推進するため、受験特別措置に係る基礎研究の実施、視覚障害者用TOEIC受験対策教材の作成と指導を行っているほか、障害者高等教育拠点における外国語科目コンテンツでは、TOEIC試験対策Web講座の一環として、「英語5文型」を手話で解説し、補足資料と字幕を合わせて1画面で提示する動画コンテンツを制作している。

○ 高等教育における障害者のイコールアクセスに向けた積極的な取組

障害者高等教育拠点において、視覚障害者用の情報保障機器の利用方法や関係書籍情報と併せて他大学に貸与しているほか、視覚障害学生を受け入れている大学関係者等が参加しているメーリングリスト「VISS-net」を活用し、各種相談・情報交換を行っている。